

幼 兒 教 育

第二十二卷
第八五號

大正十一年五月十五日發行

童話の遊離性に就いて

文學博士 松 村 武 雄

一、童話の起原

童話の起原に就きましては、從來四つの説が唱へられて居ります。

(a) 第一に童話は神話の渣滓である、と云ふ説であります。マクス、ミュラー一派の唱へたものであります。その説によりますと、古代神話の神々が、古代傳説の半神又は英雄に變じ、又其の半神及び英雄が後に童話の主人公となりこれを中心として話したものが童話である、といふのであります。

然しながら、この學説には弱點があります。それは、神話と童話が同一或は類似の事件を含む場合、後者は前者の渣滓だとは限つてゐません。兩者とも、

更に、古い共通の根原より生れた、といふ證據が多々あります。

(b) 第二に、童話はすべて印度の梵語文學から發生したものであつて、ベタに書かれたものが、後代になり四方に傳播されたものである、と云ふ説であります。英國のジョージ・コックス等の唱へる説であります。

然しながら、印度起原説も其を裏切る數多の事實があります。

1、印度アーリアンでない民族が多くの童話を有する事。其の民族は印度アーリアンと嘗て接した形跡がない事。

2、ベダの書かれる以前に出來たと思はれる童

話がエジプト等に存する事。

これを見ましても、ヨーロッパに語り傳へられてゐる多くの童話は、大部分は印度に基源を發してゐるにしても、總てが印度から起つたとは云へなくなるのであります。

(c) 第三に、童話とは原始民族が自然物素及び自然現象に對する觀察の記録であると云ふ説もあります。ドイツのマクス、ミュラー等の唱へたものであります。

之に依ると、未開民族が、太陽、曉、風雨、雷霆に就いての自然的の叙述をなしたものが、後代になつて本來の意義が不明となるに従ひ、物語化して童話となつたといふのであります。この學説は、英國の人類學的物語學者アンドリウ、ラングに依つて全然破壊されてしまひました。

ラングの云ふ所に依れば、野蠻民族は、自然物素や自然現象について、科學的に觀察し叙述する以前に、其のうちに、生命あり感情ある生物を觀する。

従つて、自然の科學的叙述の生れるに先だつて、物語が先づ第一に發生してゐるといふのであります。

而して人類學や民族心理學の示す所に依れば、グリ

ム等の説が否で、ラングの説が是である事が解ります。

(d) 第四に、ラング等の人類學的物語學者の唱へる學説に依りますと、童話は低い文化階級の民族が物語に對する興味の要求を充さんが爲めに、又、其等の民族の間に神聖視されたところの風習、信仰、道德律、社會制度、其等を Young Generation に教示せんがために、民族間の古老が語つた物語であります。而して、同一の文化階級に於ける各民族の風習、信仰、思想等は、極めて相類似してゐます。且つ又、低い文化階級に於ては、民族の經驗は、甚だ狭い範圍に極限されてゐます。さうして、この二つの事實が、物語を産む創造的能力を支配するから、各民族お互に關係なく、獨立的に産み出した童話にも、著るしい同一性、若しくは類似性が現れるといふのであります。私の見るところでは、この説が最も穩當で、蓋然性が多いと思はれます。

二、童話の遊離性

第四説を童話の起原とするならば、各民族がお互に接觸交通しなくとも、彼等の童話の間に、或る程

度の同一もしくは類似の内容のあるといふ事は、自然の結果であります。然し、廣く各民族の間に見える童話にして、其の内容をなす多くの事件及び其等の事件の配列が、精細に同一である場合には、ラング氏等の云つたやうに、風習、信仰、思想の類似を以て、之を解釋し難い事情があります。それでラングはまた之に對し説を出して云ふには、童話は神話は神話傳説等と異つて、時代、方所、人物の確定性を有しないのであります。時代から云へば、「むかし〜」でよろしいし、方所は、「あるところに」でよろしいし、人物は、「おちいさん、おばあさん」でよろしいのであります。それ故、童話は、如何なる所に生れたとしても、容易に本來の生地を離れて、他の地方もしくは民族の間に傳播し易いのであるといふのであります。それを童話の遊離性と云ひ、又、童話を稱して、説話學上で、遊離説話といふ所以であります。かやうに、童話は、強烈な遊離性を有するが故に同一の童話が、世界の殆んど各部に見出されることあります。この場合には、之を説話學上で、世界大擴布説話といひます。二三の實例を擧げるならば、

日本の「猿の肝取り」の話は、印度に起原を發し、佛本行經及び經律異相に出てゐます。支那に傳來して、祖庭事苑中の一物語となり、更に、朝鮮に姿を現し、「三國史記」中の物語となり、又、チベットに傳播しては、O'Connor: Folk Jales from Tibet に載録されてゐます。更に興味ある事實は、この物語が遠くアフリカの黒人の間に見出されるといふ事であります。即ち Swahili 族の物語によると「昔、鯨の王が病んで、醫藥に猿の肝を求めてゐる。すると、部下の鯨が海邊の果樹に住む猿と親しくしてゐるので、之をわざむいて海上に連れ出します、すると日本物の語における如く猿は肝が入用なのだかわかると、樹上に殘して置いたと云ふ奇智で、其の場を脱する」と云ふ筋になつて居ります。

また、「鼠の嫁入り」の話は、岡白駒の「奇談一笑」に漢譯されてゐますから、寶曆明和の頃には、民間に語りつたへられてゐる事が解ります。更に古くは、三養雜記、その他に、大岡越前守が、萩生徂徠の博識をためす爲に、鼠の嫁入りの話の出所を尋ねた、といふ事が出てゐますからして、享保時代にも日本にあつたと云へますが、我國に於ける最古のもの

しては、無住法師が弘安二年から六年にかけて完成した沙石集に出てゐる話であります。従つて少くとも、六百三十餘年前には、日本に存在してゐたわけになるのであります。而してこの物語も日本で生れた話でなくて、明かに印度から傳來のもので、即ち印度古代の訓話集なる、Panchatantra (卷三)、Katha Sarit Sagara (卷二)、Hitopadesa 等に、同一の話が含まれてゐます。セイロン島には、今日でも民間に語り傳へられてゐるさうで、H. Parker 氏の Village Folk-tales of Ceylon (二卷) に出てゐます。

三、遊離性と國民性との關係

童話は、神話及び傳説と同じく、或る民族の或る文化階級に於ける心的産物であるから、其の中には、其の民族の國民的性情が鮮明に反映してゐるのは、當然であります。之を日本の童話に就いて云へば、歐洲諸國の童話に比して、明るい滑稽、諧謔が甚だ多量に潜在してゐます。例へば、古事記に著れた大國主命と少名彥命との競争の話の如き之であります。その話は次のやうであります。「少名彥命は土を澤山入れた畚を脊負ひ、大國主命は大便をこらへて、

遠い路を歩きつこをして、大國主命が遂に我慢しきれず敗けた。」といふのであります。

ギリシア人は美に對する強い愛好を有してゐる故に、美的な競争の物語が非常に多くあります。アポロとアルシアスとの音樂の競争の話やアテテとアラクテと云ふ少女とが精巧な機械の競争をした話等がその例であります。

北歐神話は殺伐で、多飲多食でローマ人から海狼とよばれた位でありますから、競争の話と云へば、飲みくらべ、食べくらべの話が多くあります。一二の例をあげて見ます。「ロキー(火の神)と巨人とが食べくらべをして、大きな鹽に肉を入れ、ロキーは肉だけしか食べられなかつたが巨人は肉ばかりでなく鹽まで食べてしまつた。」といふ物語があります。又「雷霆神トルが巨人と飲みくらべをして、其時に巨人が角盃に酒を満してトルに渡し、巨人は一口に之を飲んでしまふ、如何なる弱者でも三口以上に飲む者は居ない、と云つたので、トルが一口に飲みつくそう息の續く限り角盃を傾けると、何度飲んでも少ししか減らないのです。不思議に思ふと、巨人が説明して云ふには、目には見えぬが角盃の下端には穴が

あいてゐて、それが海に接してゐる、トルが鯨飲したために、海の水が幾分か減つた。」といふ物語の如きものであります。

日本の童話に表れる如意寶の能力は、ヨーロッパ及びアラビア等の童話に表れる如意寶の能力に比べるゝ、すこぶる制限的であります。ヨーロッパ及びアラビアの如意寶には、瞬間にして、千里を飛ばす毛皮や、忽然として巨大な城や都市を出現させるランプ等があらはれてゐますが、日本の如意寶は、かやうな法外な絶大な能力を發揮するものがありません、精々米倉を出すとか、もしくは永遠に使用して盡きない布帛、もしくは人を見えなくするかくれ笠、かくれ隠蓑と云ふものが、如意寶の最高の限度をなしてゐます。しかし、説話學の敎へる所に依れば、如意寶は各民族の生活上の慾望の顯現である、と云ひます。さうしたならば、日本の如意寶が、その能力に於て甚だ制限的であるといふ事實は、日本人が歐洲人等に比して慾望の淡泊である、といふ事の反映でなくてはならぬ事になります。

又日本の童話には、超人間的靈格に對する揶揄、翻弄の趣がすこぶる濃厚に、且つ頻繁にあらはれて

ゐます。例へば、餌差十王の物語に於ては、機智に富んだ男が、閻魔大王に鳥獸の肉を食はせて、人間界にかへる許可を得たといふ物語があります。又、朝比奈物語に於ては、朝比奈が地獄で閻魔大王を征服し、自分の金棒をかつがせて諸國を巡遊させた、と説いてゐます。又、梅津長者物語に於ては、主人公が盜賊の難をまぬかれたのを祝して、あの妙な格好をした七福神が相撲を取つた、といふ物語があります。

かくの如くして、すべて、日本の童話に於ては超人間的能力を有する靈格、換言すれば、當然民衆の信仰、崇拜の對象となるべき存在までが、民衆の滑稽化の材料につかはれてしまつてゐます。かくの如き事實は、西洋の童話に於ては、日本ほど著しくない現象であります。これ、日本人が全體として、樂天的、現世的で、洒落、滑稽の氣分に富んでゐる事の致すところであると思ひます。

かくの如く童話は、或る程度迄は、國民の性情を反映させるものでありますが、こゝに童話の遊離性といふ事實を考へると、問題がやゝ複雑になります。先に云つたやうに、童話は強烈な遊離性を有してゐ

ますから、従つて、或る國民の有する童話が、總てその國民に固有なものとは限つてゐないのであります。その中には、他國からの輸入が多量に含まれてゐるものであります。従つて、童話を材料として或る國民の國民性を云々する場合には、極めて慎重な態度を取らねば、甚だ滑稽なる推論に陥る事があります。嘗て某氏は、童話を通じて、ロシアの國民性を考案した場合に、童話に少年少女が自己の家を離れて冒險の途につく筋の多いのを指摘して、これ、ロシア人の特有する漂浪性の反映であると結論しました。しかし這般の童話は、決してロシアに固有のものになうて、歐洲各國にひろく擴布してゐます。従つて、さうした童話は、必ずしもロシア人の心的産物とは云へないのであります。然りとせば、之を基礎として、ロシア國民の性情を云々するは、さぶる大膽な、且つ危険なものとせねばなりません。要するに、童話を通じて、國民性を見る場合には、考察の基礎とするところの或る童話が、他國よりの輸入にあらずして、該國の純眞な産物である、と云ふ事をつきとめた上でなければなりません。若くは、他國よりの傳來でも、ある國民が特にこれを愛好す

るとか、他國の童話のうちで、ある内容のものに限り、特に多く傳來してゐるといふ場合には、國民性が多少窺はれると思ひます。

○歸朝御挨拶

在外中は御無沙汰ばかりいたして居りました。此の度び歸朝、從前の通り日本幼稚園協會のために微力をいたし度いと存じて居ります。本會のために、相繼りませす御高情を願ひます。

尙ほ神戸及び東京驛著の際、わざわざお出迎ひをいただきました方に、また一々御挨拶を申上げる暇もなく失禮して居ります。略儀ですが誌上を借りて厚くお禮を申し上げます。

五月

倉橋 惣三